

例会要旨

2022年2月28日
ZOOM オンライン

オーストラリアの先進的な統計利用 ーテーブルビルダーの利点と可能性ー

堤 純 (筑波大学)

2022年4月から、高等学校の地理歴史の教科において地理総合、歴史総合、公共の科目の必修修化がスタートした。とくに地理総合において目玉の一つとなるものが地理情報システム (GIS) である。

GIS といえば、国別や県別などのコロプレスマップや、地形の3D 表示や地形断面図の作成、さらには防災ハザードマップへの応用など、いわゆる「定番」といわれる利用方法がさまざまな場面で紹介されている。そうした状況下において、GIS の社会経済的な視点からの利用の一例として、大都市圏の諸問題に鋭く切り込むような GIS の使い方がないだろうか、という問いから本特集号の企画がスタートした。具体的には、大都市圏の中のどこにどのような人が暮らしていて、それがここ数十年の間にどのように変化してきたのか。あるいは、所得レベルや学歴、使用言語、職業別といった社会経済的な条件別にみた大都市圏内部における人口学的な特徴を地図化した上で、詳細な考察を進められないだろうか。

ただ、こうした学術的な興味関心を実証的に検証するには、さまざまな困難が伴うことも事実である。例えば、日本の国勢調査を例に挙げれば、個人の学歴や所得、信仰する宗教、語学の運用能力などの調査項目がないため、当然のことながらこうした統計は日本にはほぼ存在しないといっただろう。一方で、統計利用の先進地域に目を向けると、われわれが知りたいと思っている指標の多くについて、国勢調査の統計として存在することが分かってきた。とくに、統計利用の先進地域の中でも、オーストラリア統計局が提供するテーブルビルダーのサービスは、世界で最も先進的な統計利活用の例と言っても過言ではないだろう。なお、オーストラリアの国勢調査データの先進性については、谷道ほか (2016) に詳しい。

本例会で発表された各論考のタイトルは以下の通りである。

- ・堤 純 (筑波大) : オーストラリア大都市圏の変容
- ・宇野広樹 (筑波大・院)・堤 純 (筑波大) : ホテル検索サイトデータを活用したオーストラリア都市内部のホテル立地に関する考察
- ・石井久美子 (筑波大・院) : オーストラリア大都市圏におけるエスニック別にみた学歴と所得の関係
- ・花岡和聖 (立命館大) : オーストラリアにおける移民の地方移住・定住に着目した居住地分析
- ・阿部亮吾 (愛知教育大) : シドニー大都市圏におけるアジア系留学生の居住分布

この例会は、本特集号の企画代表者である堤 純（筑波大）を研究代表者とする科学研究費基盤研究（B）（No.24401036：2019～2022年度）「アジアリンクの拡大からみた現代オーストラリアの産業多様化」の研究成果の一例として企画された。当日発表された五つの発表と総合討論における議論の成果をふまえ、最終的には4本の論文をもって、地理空間14巻3号の特集号としてまとめた。

文献

谷道正太郎・伊藤伸介・小島健一（2016）：オーストラリアのオンデマンド集計に関する調査研究. 独立行政法人 統計センター. <https://www.nstac.go.jp/services/pdf/sankousiryoyou2808.pdf>（2022年3月5日最終閲覧）